

授業科目	解剖病態生理学 I	担当講師	非常勤講師 (医師)
開講年次	1 年次	単位数・時間数	1 単位・20 時間
科目目標	生命現象の基本となる呼吸器系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院 系統看護学講座「呼吸器」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 呼吸器系の構造と機能	10	1 呼吸器系の構造 <ol style="list-style-type: none"> 1) 上気道 2) 下気道と肺 3) 胸膜・縦郭 2 呼吸の機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動 3) 呼吸気量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 肺の循環と血流 6) 呼吸運動の調節 	テキスト「解剖生理学」第3章
2. 呼吸器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	10	1 おもな症状とその病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 咳嗽 2) 喀痰・血痰・咯血 3) 胸痛 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) ばち指 7) 発熱 8) 呼吸異常 9) 声の異常、いびき、意識障害 2 おもな疾患とその病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症 2) 間質性肺疾患 3) 気道疾患 4) 肺循環疾患 5) 呼吸不全 6) 呼吸調節に関する疾患 7) 肺腫瘍 8) 肺・肺血管の形成異常 9) 胸膜・縦郭・横隔膜の異常 10) 胸部外傷 3 検査 <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液・喀痰・咽頭・鼻腔・胸水検査 2) 画像診断 	テキスト「呼吸器」

		<ul style="list-style-type: none">3) 内視鏡検査4) 生検5) 呼吸機能検査 <p>4 治療・処置</p> <ul style="list-style-type: none">1) 吸入療法・酸素療法・人工呼吸療法2) 呼吸リハビリテーション3) 気道確保4) 胸腔ドレナージ5) 手術療法	
--	--	---	--

授業科目	解剖病態生理学Ⅱ	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	生命現象の基本となる循環器系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院 系統看護学講座「循環器」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 循環器系の構造と機能	8	1 心臓の構造と機能 1) 心臓の構造 2) 血管の拍出機能 2 末梢循環系の構造と機能 1) 血管の構造 2) 肺循環・体循環の動脈・静脈 3 血液循環の調節 1) 血圧 2) 脈拍 3) 微小循環 4 リンパ系の構造と機能 1) リンパ管の構造 2) リンパの循環	テキスト「解剖生理学」第4章
2. 循環器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	12	1 おもな症状とその病態生理 1) 胸痛・動悸 2) 呼吸困難 3) 浮腫 4) チアノーゼ 5) めまい・失神 6) 四肢循環障害 7) ショック 2 おもな疾患とその病態生理 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 弁膜症 6) 心膜炎 7) 心筋疾患 8) 肺性心 9) 先天性心疾患 10) 血管系・リンパ系疾患 3 検査 1) 心電図・胸部X線検査・心エコー 2) 心臓カテーテル法	テキスト「循環器」

		<ul style="list-style-type: none">3) 血行動態モニタリング4) シンチグラフィ・CT・MRI <p>4 治療・処置</p> <ul style="list-style-type: none">1) 薬物療法2) 経皮的冠状動脈インターベンション3) ペースメーカー4) 手術療法5) 補助循環装置	
--	--	---	--

授業科目	解剖病態生理学Ⅲ	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	運動に関わる骨格・筋肉系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院 系統看護学講座「運動器」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 運動器系の構造と機能	10	1 骨格 <ul style="list-style-type: none"> 1) 体幹と体肢の骨格 2) 骨の形態と構造 3) 骨の組織と組成 4) 骨の発生と成長 5) 骨の生理的な機能 2 骨の連結 <ul style="list-style-type: none"> 1) 関節の構造 2) 関節の形状と可動性 3 骨格筋 <ul style="list-style-type: none"> 1) 骨格筋の構造 2) 骨格筋の作用と運動 3) 骨格筋の神経支配 4 体幹の骨格と筋 <ul style="list-style-type: none"> 1) 脊柱 2) 胸郭 3) 背部・胸部・腹部の筋 5 上肢の骨格と筋 <ul style="list-style-type: none"> 1) 上肢帯・自由上肢の骨格 2) 上肢帯・上腕・前腕・手の筋群 3) 上肢・手の運動のメカニズム 6 下肢の骨格と筋 <ul style="list-style-type: none"> 1) 下肢帯・骨盤・自由下肢の骨格 2) 下肢帯・大腿・下腿・足の筋群 3) 下肢の運動のメカニズム 7 頭頸部の骨格と筋 <ul style="list-style-type: none"> 1) 神経頭蓋と内臓頭蓋 2) 頭部・頸部の筋群 8 筋の収縮 <ul style="list-style-type: none"> 1) 骨格筋の収縮機構 2) 骨格筋収縮の種類と特性 3) 不随意筋の収縮の特徴 	テキスト「解剖生理学」第7章 テキスト「運動器」

<p>2. 運動器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置</p>	<p>10</p>	<p>1 おもな症状とその病態生理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疼痛 2) 形態の異常 3) 関節運動の異常 4) 神経の障害 5) 跛行 6) 筋肉の障害 <p>2 おもな疾患とその病態生理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨折・脱臼・捻挫および打撲 2) 神経・筋・腱・靭帯の損傷 3) 先天性運動器疾患 4) 骨・関節の炎症性疾患 5) 骨腫瘍・軟部腫瘍 6) 代謝性骨疾患 7) 腱の疾患 8) 神経・筋疾患 9) 上肢および上肢帯の疾患 10) 脊椎の疾患 11) 下肢および下肢帯の疾患 12) ロコモティブシンドローム・フレイル・サルコペニア・廃用症候群 <p>3 検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 肢位・姿勢の視診・触診 2) 計測・徒手筋力テスト 3) 画像検査 4) 電気生理学的検査 5) 関節鏡検査 <p>4 治療・処置</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保存療法 2) 理学療法と作業療法 3) 手術療法 4) 義肢と装具 	
------------------------------------	-----------	--	--

授業科目	解剖病態生理学Ⅳ	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	咀嚼・嚥下・食味に関わる歯・口腔系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。 食物を消化・吸収しエネルギー供給を担う消化器系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院 系統看護学講座「歯・口腔」医学書院 系統看護学講座「消化器」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 歯・口腔系の構造と機能	2	1 口腔と口腔周囲 2 顎骨・顎関節 3 口腔顎顔面の筋 4 唾液腺 5 味覚器の構造と味覚の特徴*	テキスト「歯・口腔」 *テキスト「解剖生理学」第8章
2. 歯口腔系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	4	1 おもな症状とその病態生理 1) 口腔症状 2) 顎口腔機能障害 2 おもな疾患とその病態生理 1) 歯の異常・齲蝕その他の疾患 2) 口腔領域の炎症 3) 口腔粘膜の疾患 4) 口腔領域の嚢胞・腫瘍 5) 外傷・先天性疾患 6) 顎関節症 7) 唾液腺の疾患 8) 顔面神経麻痺・三叉神経麻痺 3 検査 1) 歯と歯周組織の検査 2) 下顎運動検査 3) 咀嚼・嚥下機能検査 4) 口腔乾燥検査 5) 言語機能検査 6) 味覚検査・皮膚・粘膜感覚検査 7) 画像検査 8) その他の生体検査 4 治療・処置 1) 保存療法 2) 口腔外科の治療 3) 補綴治療 4) 矯正歯科治療 5) 小児や高齢者の治療	テキスト「解剖生理学」第2章も参考にする テキスト「歯・口腔」 テキスト「解剖生理学」第2章

<p>3. 消化器系の構造と機能</p>	<p>6</p>	<p>1 咽頭・食道・咽頭と食道の構造と機能 2 腹部消化管 1) 胃・小腸の構造と機能 2) 栄養素の消化と吸収 3) 大腸の構造と機能 3 膵臓 1) 膵臓の構造 2) 膵臓と膵液 4 肝臓・胆嚢・胆道・門脈の構造 5 肝臓の機能 1) 代謝機能 2) 解毒・排泄機能 3) 胆汁の産生 4) 貯蔵機能 5) 胎児期の造血機能 6 腹膜 1) 腹膜と腸間膜 2) 腹膜と内臓の位置 3) 胃の周辺の間膜</p>	<p>テキスト「消化器」</p>
<p>4. 消化器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置</p>	<p>8</p>	<p>1 おもな症状とその病態生理 1) 嚥下困難 2) おくび・胸やけ 3) 嘔気・嘔吐 4) 腹痛 5) 吐血・下血 6) 下痢・便秘 7) 腹部膨満 8) 食欲不振と体重減少 9) 腹水・黄疸・肝性脳症 2 おもな疾患とその病態生理 1) 食道の疾患 2) 胃・十二指腸疾患 3) 腸および腹膜疾患 4) 肝臓・胆嚢疾患 5) 膵臓の疾患 6) 急性腹症・腹部外傷 3 検査 1) 糞便検査 2) 肝機能検査・膵外分泌機能検査 3) 超音波検査 4) 内視鏡検査 5) 肝生検 6) 放射線検査</p>	

7) CT・MRI・シンチグラフィ・PET

4 治療・処置

- 1) 薬物療法
- 2) 栄養療法・食事療法
- 3) 手術療法
- 4) 放射線療法

授業科目	解剖病態生理学V	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	<p>体液量を調節して排出する腎泌尿器系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。</p> <p>生命をつないで種を維持する男性生殖器の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。</p>		
使用テキスト	<p>系統看護学講座「解剖生理学」医学書院</p> <p>系統看護学講座「腎・泌尿器」医学書院</p>		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 腎・泌尿器系の構造と機能	6	<p>1 腎臓</p> <p>1) 腎臓の構造と機能</p> <p>2) 糸球体の構造と機能</p> <p>3) 尿細管の構造と機能</p> <p>4) 傍糸球体装置</p> <p>(1) 尿細管糸球体フィードバック</p> <p>(2) レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系</p> <p>5) クリアランスと糸球体濾過量</p> <p>6) 腎臓から分泌される生理活性物質</p> <p>2 排尿路</p> <p>1) 排尿路の構造</p> <p>2) 尿の貯蔵と排尿</p> <p>3 体液の調節</p> <p>1) 水の出納と脱水</p> <p>2) 電解質の異常</p> <p>3) 酸塩基平衡</p> <p>(1) 腎性代謝</p> <p>(2) 呼吸性代謝</p>	テキスト「解剖生理学」第5章
2. 腎・泌尿器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	8	<p>1 おもな症状とその病態生理</p> <p>1) 尿の異常</p> <p>2) 排尿に関連した症状</p> <p>3) 浮腫と脱水</p> <p>4) 循環器系の異常</p> <p>5) 血液の異常</p> <p>6) 尿毒症</p> <p>7) 疼痛・腫脹・腫瘤</p> <p>2 おもな疾患とその病態生理</p> <p>1) 腎不全</p> <p>2) ネフローゼ症候群</p> <p>3) 糸球体腎炎</p> <p>4) 全身性疾患による腎障害</p> <p>5) 尿細管間質性腎炎</p>	テキスト「腎・泌尿器」

		<ul style="list-style-type: none"> 6) 腎血管性病変 7) 尿細管機能異常 8) 妊娠高血圧症候群 9) 尿路の感染症 10) 尿路の通過障害・損傷・結石 11) 尿路の腫瘍 12) 発生・発育の異常 <p>3 検査</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 尿検査 2) 腎機能検査 3) X線撮影 4) 超音波検査 5) シンチグラフィ・CT・MRI・PET 6) 内視鏡検査 7) 尿流動態検査 8) 生検 <p>4 治療・処置</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 内科的治療 2) 手術療法 3) 放射線療法 4) 薬物療法 5) 排尿管理 6) 透析療法 7) 腎移植 	
3. 男性生殖器系の構造と機能	2	<ul style="list-style-type: none"> 1 精巣（睾丸） 2 精路（生殖路）と付属生殖腺 3 男性の外陰部 4 男性の生殖機能 	テキスト「解剖生理学」第10章
4. 男性生殖器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	4	<ul style="list-style-type: none"> 1 おもな症状とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 腫瘍 2) 性機能障害 2 おもな疾患とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 性器の感染症 2) 性器の腫瘍 3) 男性不妊症 4) 男性性機能障害 5) 陰嚢水腫・精索静脈瘤 6) 精巣捻転 7) 血精液症 <p>3 検査</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 精液および分泌物の検査 2) 勃起機能検査 	テキスト「腎・泌尿器」

4 治療・処置

- 1) 手術療法
- 2) ホルモン療法

授業科目	解剖病態生理学VI	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	生体内外の環境の変化に応じて内部環境を整える内分泌系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院 系統看護学講座「内分泌・代謝」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 内分泌系の構造と機能	8	1 自律神経による調節 1) 自律神経の機能と構造 2) 神経伝達物質と受容体 2 内分泌系による調節 1) 内分泌とホルモン 2) ホルモンの化学構造と作用機序 3 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1) 視床下部-下垂体系 2) 甲状腺と副甲状腺 3) 膵臓 4) 副腎 5) 性腺 6) その他の内分泌腺 4 ホルモン分泌の調節 1) 神経系調節 2) 物質の血中濃度による自己調節 3) 促進・抑制ホルモンによる調節 4) 正と負のフィードバック 5 ホルモンによる調節の実際 1) ホルモンによる糖代謝の調節 2) ホルモンによるカルシウム代謝の調節 3) ストレスとホルモン 4) 乳房の発達と乳汁分泌 5) 高血圧をきたすホルモン	テキスト「解剖生理学」第6章
2. 内分泌系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	12	1 おもな症状とその病態生理 1) 体重変化・身長の変異 2) 容顔の変化 3) 神経・筋症状 4) 循環器症状 5) 消化器症状 6) 皮膚の変化 7) 無月経 2 おもな内分泌疾患とその病態生理 1) 視床下部-下垂体系疾患	テキスト「内分泌・代謝」

		<ul style="list-style-type: none">2) 甲状腺・副甲状腺疾患3) 副腎疾患4) 性腺疾患5) 内分泌腫瘍6) クリーゼ <p>3 おもな代謝疾患とその病態生理</p> <ul style="list-style-type: none">1) 糖尿病2) 脂質異常症3) 肥満症とメタボリックシンドローム4) 尿酸代謝異常 <p>3 内分泌疾患の検査</p> <ul style="list-style-type: none">1) ホルモンの血中濃度の測定2) 尿中ホルモンおよび代謝産物の測定3) 免疫学的評価4) ホルモン負荷試験5) 画像検査 <p>4 代謝疾患の検査</p> <ul style="list-style-type: none">1) 糖尿病の診断・治療に関連した検査2) 脂質異常症の診断・治療に関連した検査	
--	--	---	--

		<ul style="list-style-type: none">2 おもな疾患とその病態生理<ul style="list-style-type: none">1) 脳疾患2) 脊髄疾患3) 末梢神経障害4) 筋疾患・神経筋接合部疾患5) 脱髄・変性疾患6) 脳神経系の感染症7) 中毒8) てんかん9) 認知症10) 内科疾患に伴う神経疾患3 検査<ul style="list-style-type: none">1) 神経学的検査2) 画像診断3) 電気生理学的検査4) 脳脊髄液検査・生検4 治療・処置<ul style="list-style-type: none">1) 開頭手術2) 脳血管内治療3) 神経内視鏡手術4) 穿頭手術5) シヤント術6) 薬物療法・血漿交換療法	
--	--	---	--

授業科目	解剖病態生理学Ⅷ	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	生体の防御機構について理解し、生体に有害な免疫反応を示した時の人体の変化と病態および検査・治療の過程を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院 系統看護学講座「アレルギー 膠原病 感染症」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 生体防御機構	8	1 非特異的防御機構 1) 皮膚・粘膜における防御 2) 貪食作用・細胞傷害物質による防御 2 特異的防御機構（免疫） 1) 免疫に関与するリンパ球の機能 2) 液性免疫 3) 細胞性免疫 4) 予防接種 5) 免疫の異常 3 生体防御の関連臓器 1) リンパ節 2) 胸腺 3) 脾臓	テキスト「解剖生理学」第9章
2. 免疫系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	6	1 アレルギーのしくみ 1) アレルギー反応の分類 2) アレルゲンの種類 3) アレルギーの経過 2 おもな疾患とその病態生理 1) 気管支喘息 2) アレルギー性鼻炎・結膜炎 3) 食物アレルギー 4) アナフィラキシー 5) アトピー性皮膚炎 6) 蕁麻疹・接触性皮膚炎 7) 薬物アレルギー 8) その他のアレルギー 3 検査 1) I g E血清濃度 2) 白血球検査 3) リンパ球刺激試験（L S T） 4) 皮膚テスト 5) 呼吸機能検査 6) 誘発試験 4 治療・処置 1) 生活習慣の改善	テキスト「アレルギー・膠原病・感染症」アレルギー

<p>5. 膠原病の病態および検査、治療、処置</p>	<p>6</p>	<p>2) 薬物療法 3) アレルゲン免疫療法</p> <p>1 自己免疫疾患の病態 2 おもな症状とその病態生理 1) 関節痛・関節炎 2) レイノー現象 3) 皮膚・粘膜症状 4) 発熱 5) タンパク尿 6) 筋力低下 7) 血管炎に伴う症状</p> <p>3 おもな疾患とその病態生理 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) シェーグレン症候群 4) 全身性強皮症 5) 多発筋炎・皮膚筋炎 6) ベーチェット病</p> <p>4 検査 1) 末梢血・赤血球沈降速度・尿検査 2) 血清・免疫学的検査 3) 穿刺検査・病理組織学的検査 4) 画像検査</p> <p>5 治療・処置 1) 日常生活の管理 2) 薬物療法 3) 膠原病治療と妊娠</p>	<p>テキスト「アレルギー・膠原病・感染症」膠原病</p>
-----------------------------	----------	---	-------------------------------

授業科目	解剖病態生理学Ⅸ	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	<p>血液の生理と造血の仕組みを理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。</p> <p>生命をつないで種を維持する女性生殖器の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。</p>		
使用テキスト	<p>系統看護学講座「解剖生理学」医学書院</p> <p>系統看護学講座「血液・造血器」医学書院</p> <p>系統看護学講座「女性生殖器」医学書院</p>		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 血液・造血器系の構造と機能	4	<p>1 血液の組成と機能</p> <p>1) 血液の組成</p> <p>2) 造血のしくみ</p> <p>3) 血液の機能</p> <p>2 赤血球</p> <p>1) 赤血球の数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット</p> <p>2) ヘモグロビンの構造と機能</p> <p>3) 赤血球の新生と破壊</p> <p>4) 貧血と赤血球増加症</p> <p>3 白血球</p> <p>1) 顆粒球</p> <p>2) リンパ球</p> <p>3) 単球</p> <p>4 血小板</p> <p>5 血漿タンパク質と赤血球沈降速度</p> <p>6 血液の凝固と繊維素溶解</p> <p>7 血液型</p> <p>1) ABO式血液型とRh式血液型</p> <p>2) 交差適合試験</p> <p>3) 主要組織適合抗原</p>	テキスト「解剖生理学」第3章
2. 血液・造血器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	6	<p>1 おもな症状とその病態生理</p> <p>1) 貧血</p> <p>2) 白血球増加症・白血球減少症</p> <p>3) 脾腫</p> <p>4) リンパ節腫脹</p> <p>5) 出血性素因</p> <p>2 おもな疾患とその病態生理</p> <p>1) 赤血球系の異常・貧血</p> <p>2) 白血球系の異常</p> <p>3) 造血器腫瘍</p> <p>4) 出血性疾患</p>	テキスト「血液・造血器」

		<p>3 検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 末梢血検査 2) 骨髄穿刺・骨髄生検 3) 出血傾向の検査 4) リンパ節生検 5) 細胞表面マーカー検査 6) 染色体検査・遺伝子検査 <p>4 治療・処置</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 化学療法 2) 放射線療法 3) 支持療法（造血因子） 4) 造血幹細胞移植 5) 輸血 	
<p>3. 女性生殖器系の構造と機能</p>	<p>2</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 卵巣 2 卵管・子宮・膣 3 女性の外陰部と会陰 4 乳腺 5 女性の生殖機能 	<p>テキスト「解剖生理学」第10章</p>
<p>4. 女性生殖器系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置</p>	<p>8</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 おもな症状とその病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 1) ショック 2) 出血 3) 帯下 4) 疼痛 5) 発熱 6) 下腹部膨満・腫瘤感 7) 外陰部搔痒感 8) 排尿障害 9) 自律神経症状・不定愁訴 10) リンパ浮腫 2 おもな疾患とその病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外陰の疾患 2) 膣・子宮の疾患 3) 卵管・卵巣の疾患 4) 骨盤内炎症性疾患 5) 乳房の疾患 6) 性感染症 3 検査 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内診・膣鏡診・直腸診 2) 細胞診・組織学的検査 3) 細菌・ウイルス・原虫検査 4) 超音波検査 5) CT・MRI・PET 	<p>テキスト「女性生殖器」</p>

		<ul style="list-style-type: none">6) 造影検査7) 腫瘍マーカー8) 妊娠検査9) 内視鏡検査10) 染色体検査・遺伝子検査 <p>4 治療・処置</p> <ul style="list-style-type: none">1) 膣洗浄2) 膣タンポン3) 導尿4) 腹腔穿刺・ダグラス窩穿刺5) レーザー治療6) 薬物療法7) 手術療法8) 避妊	
--	--	---	--

授業科目	解剖病態生理学Ⅹ	担当講師	非常勤講師（医師）
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	音や臭いとして外部環境の情報を得る耳鼻咽喉系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。 光の刺激を感受する眼系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。 外部刺激から人体を保護する皮膚系の構造と機能を理解し、それらが障害された時の人体の変化と原因、および検査・治療の過程を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「解剖生理学」医学書院 系統看護学講座「耳鼻咽喉」医学書院 系統看護学講座「眼」医学書院 系統看護学講座「皮膚」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 耳鼻咽喉系の構造と機能	2	1 耳の構造と機能 1) 耳の構造 2) 聴覚 3) 平衡覚 2 鼻の構造と機能 1) 外鼻 2) 鼻腔 3) 副鼻腔 3 嗅覚器の構造と嗅覚の特徴* 4 口腔と唾液腺の構造と機能 5 咽頭の構造と機能 6 喉頭の構造と機能 7 気管・食道・甲状腺の構造と機能	テキスト「耳鼻咽喉」 *テキスト「解剖生理学」第8章
2. 耳鼻咽喉系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置	4	1 おもな症状とその病態生理 1) 耳にあらわれる症状 2) 鼻にあらわれる症状 3) 口腔・咽頭にあらわれる症状 4) 喉頭にあらわれる症状 2 おもな疾患とその病態生理 1) 耳疾患 2) 鼻疾患 3) 口腔・咽頭喉疾患 4) 気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害 3 検査 1) 視診・聴力検査 2) 平衡機能検査 3) 耳管通気検査 4) 顔面神経機能検査 5) 鼻・副鼻腔検査	テキスト「耳鼻咽喉」

		<ul style="list-style-type: none"> 6) 内視鏡検査 7) 嗅覚・味覚検査 8) CT・MRI 4 治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> 1) 耳の処置 <ul style="list-style-type: none"> (1) 耳清拭・洗浄・吸引・塗布 (2) 点耳 (3) 鼓膜切開術 2) 口腔・咽喉頭の処置 <ul style="list-style-type: none"> (1) 塗布・噴霧 (2) ネブライザー療法 3) 気管切開 4) 手術療法 	
<p>3. 眼系の構造と機能</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 眼球 <ul style="list-style-type: none"> 1) 角膜・強膜 2) ぶどう膜 3) 網膜 4) 水晶体 5) 硝子体 2 視神経・視路 3 眼球付属物 <ul style="list-style-type: none"> 1) 眼瞼 2) 結膜 3) 眼筋 4) 眼窩 	<p>テキスト「眼」</p> <p>テキスト「解剖生理学」第8章も参考にする</p>
<p>4. 眼系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 おもな症状とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 視機能に関連した症状 (視力障害、視野障害、色覚異常、複視、他) 2) 視機能に関連しない症状 (充血、流涙、眼脂、羞明、異物感、他) 2 おもな疾患とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 機能の障害 (屈折異常、調節異常、色覚異常、弱視、他) 2) 部位別の疾患 (眼瞼疾患、結膜疾患、涙管疾患、角膜疾患、網膜・硝子体疾患、水晶体疾患、他) 3) 外傷 3 検査 <ul style="list-style-type: none"> 1) 視力検査 2) 屈折検査 3) 細隙灯顕微鏡検査 4) 眼底検査 	<p>テキスト「眼」</p>

<p>5. 皮膚系の構造と機能</p>	<p>4</p>	<p>5) 眼圧検査 6) 涙液分泌検査 7) 色覚検査 他 4 治療・処置 1) 点眼法・洗眼法・眼帯・注射・ブジー 2) 光凝固・冷凍凝固 3) 屈折矯正・視能矯正 4) 手術・麻酔 他</p> <p>1 皮膚の構造 1) 表皮 2) 表皮・真皮接合部 3) 真皮 4) 皮下組織 5) 皮膚の脈管と神経 6) 皮膚付属器</p> <p>2 皮膚の機能 1) 保護作用 2) 免疫機能 3) 保湿作用 4) 体温調節作用 5) 知覚作用 6) 分泌・排泄作用</p>	<p>テキスト「皮膚」</p> <p>テキスト「解剖生理学」第9章も参考にする</p>
<p>6. 皮膚系のおもな疾患の病態および検査、治療、処置</p>	<p>4</p>	<p>1 おもな症状とその病態生理 1) 発疹 2) 掻痒 3) 皮膚の老化</p> <p>2 おもな疾患とその病態生理 1) 表在性皮膚疾患 2) 真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器の疾患 3) 脈管系の異常による皮膚疾患 4) 物理・化学的皮膚障害 5) 腫瘍および色素異常症 6) 感染症 7) 全身性疾患に伴う皮膚病変</p> <p>3 検査 1) 皮膚科的検査法 2) 病原微生物の検査法 3) 病理組織検査法 4) 分子生物学的検査法</p> <p>4 治療・処置 1) 全身療法 2) 外用療法</p>	<p>テキスト「皮膚」</p>

- | | | | |
|--|--|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none">3) 手術療法4) 光線・レーザー療法5) 放射線療法6) 電気外科7) 凍結療法・温熱療法8) ケミカルピーリング | |
|--|--|---|--|